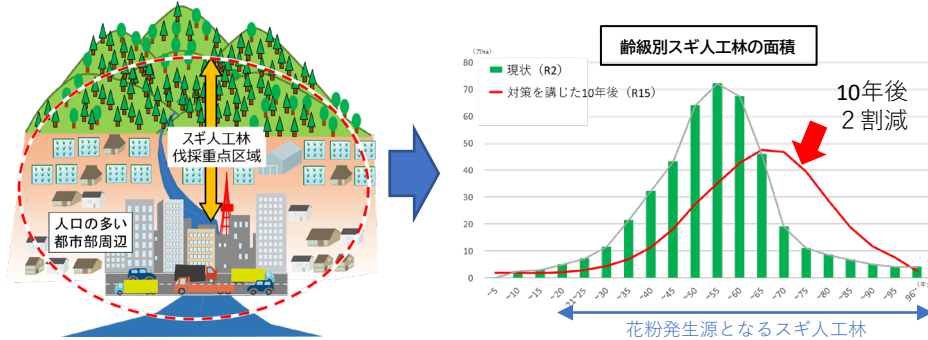


1. 発生源対策

10年後に花粉発生源のスギ人工林を約2割減少させることを目指す。これにより、花粉が多いシーズンでも、**平年並みの水準まで減少させる効果が期待**。将来的（約30年後）には**花粉発生量の半減**を目指す。

(1) スギ人工林の伐採・植替え等の加速化

- 本年度中に「スギ人工林伐採重点区域」を設定
- 伐採・植替えの一貫作業と路網整備の推進
- 意欲ある林業経営体への森林の集約化の促進



(3) 花粉の少ない苗木の生産拡大

- 森林研究・整備機構における原種増産施設の整備支援
- 都道府県における採種園・採穂園の整備支援
- 民間事業者によるコンテナ苗増産施設の整備支援
- スギの未熟種子から苗木を増産する技術開発支援



コンテナ苗生産施設

(4) 林業の生産性向上及び労働力の確保

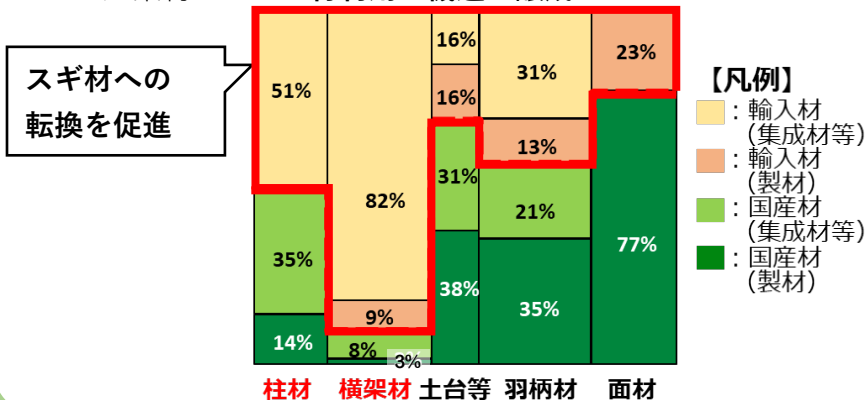
- 意欲ある木材加工業者等に対する高性能林業機械の導入支援
- 農業・建設業等の他産業、他地域、地域おこし協力隊との連携の推進
- 外国人材の受入れ拡大



材の枝払い、玉切り等を連続して行う高性能林業機械

(2) スギ材需要の拡大

- 住宅分野における輸入材からスギ材への転換促進
- 集成材工場、保管施設等の整備支援
- 建築物へのスギ材利用の機運の醸成



2. 飛散対策

(1) スギ花粉飛散量の予測

- スギ雄花花芽調査の民間提供情報の詳細化
- 航空レーザー計測による森林資源情報の高度化及びデータの公開を推進



飛散防止剤により枯死した雄花

(2) スギ花粉の飛散防止

- 森林現場でスギ花粉の飛散防止剤の実証試験・環境影響調査を実施

3. 発症・曝露対策

- スギ花粉米の実用化に向け、官民協働の取組を推進